

平成 24 年度原木需給情報システム開発事業
(林野庁補助事業)

中国木材需給関連情報収集分析報告書

平成 26 年 1 月

一般社団法人日本木材輸出振興協会

一般財団法人日本木材総合情報センター

中国木材需給関連情報収集分析報告書

目次

はじめに	
1. 事業実施の概要	1
1-1 背景と目的	1
1-2 方法	1
1-3 情報利用上の留意事項	1
2. 中国の木材需給に対する現状認識	2
2-1 木材の需給状況	2
2-1-1 伸び続ける木材需要	2
2-1-2 国内供給の不足	2
2-1-3 海外輸入への依存	4
2-1-4 拡大続く需給ギャップ	5
2-2 木材利用の状況	6
2-2-1 用途別木材需要量	6
2-2-2 木質パネル用材消費量	7
2-2-3 紙パルプ用材消費量	8
2-2-3 建築用材消費量	9
2-2-4 家具用材消費量	10
3. 中国木材需給関連データシート	11
3-1 主要参考文献	11
3-2 データシート索引用表	11

附：中国木材需給関連データシート

はじめに

日本国内の原木需給・木材需給の状況把握を図る上で、世界最大の木材貿易国であり、わが国の木材輸入、輸出の最大相手国でもある中国の木材需給とその動向を分析することは、必要不可欠なものである。そして、この分析においてカギとなるのは、中国の木材需給に係る森林資源、主要木材製品の生産、輸出入、建築着・完工などのデータ・情報の整備である。

以上に述べた中国木材需給関連情報の収集分析の重要性に鑑み、平成24年度林野庁補正事業「原木需給情報システム開発」の実施項目のひとつとして、本報告書では、中国の木材需給諸事項をとりまとめるとともに、中国の官公庁等の公表データを基に、専門的な視点に立った情報処理により新たに生み出された付加価値の高い情報を構築している。

本報告書に掲載されたデータの補完や更新については今後さらなる努力が必要であるが、本報告書が、日本国内の木材需要に応じた供給体制の整備を図る「原木需給情報システム」の開発、木材需給の分析並びに需要者への情報提供などにとって、大いに参考になるものと期待している。

なお、本報告書は、日本国内の原木・木材需給の分析、中国向け木材輸出の促進の参考となる情報提供を目的としたものであり、記載された情報を用いた意思決定は、読者自身のご判断によることとされたい。

本調査に際しては、中国現地の方々に協力を頂いた。ここに、深く感謝の意を表する次第である。

平成26年1月

一般社団法人 日本木材輸出振興協会
会 長 安藤 直人

1. 事業実施の概要

1-1 背景と目的

海外との木材貿易が多いわが国の原木需給、木材需給を考える際には、わが国の木材貿易の最大の相手国である中国の木材需給、主要木材製品の生産状況、建築着・完工、主要木材製品の流通価格といった情報及びその情報の分析が不可欠である。

また、農林水産省におかれては、農林水産物・食品の輸出額を平成 32 年までに 1 兆円水準とする政府目標を達成することとし、林産物の分野では、国産材の利用拡大促進の一環として、近隣国の中国を重点的な市場と位置づけ、スギ、ヒノキ、カラマツ等日本産木材による構造材、内外装材の輸出に取り組むこととされている。こうした中では、中国の木材需給関連情報を収集、分析、提供することは、極めて重要である。

このため、本調査は、日本国内の木材需要に応じた供給体制の整備を図る「原木需給情報システム」の開発、木材需給の分析、中国向け木材輸出の促進並びに需要者への情報提供に資することを目的とし、平成 24 年度林野庁補正事業である「原木需給情報システム開発事業」の一環として、中国の関係業界団体や有識者の協力の下に、中国の木材需給諸事項を概観するとともに、中国の官公庁等の公表データ及びこれを基に情報処理により得られた付加価値の高い情報からなる「中国木材需給関連情報」（146 のデータシート）の構築を試みた。

1-2 方法

本事業は、中国の木材業界団体、大学・研究機関、統計関連先等を対象に、中国の木材製品生産、消費、貿易の現状と動向などについて現地調査並びに資料収集を行った上で、中国の官公庁等の公表データを利用しやすいデータシートの形で情報処理を行った。

なお、本調査内容の企画から、データシートの構成、木材関連情報の処理、報告書の取りまとめまでは、一般社団法人日本木材輸出振興協会 趙 川 業務課長の助言をいただいた。

1-3 情報利用上の留意事項

中国木材需給関連データシートの利用にあたっては、以下のことにご留意いただきたい。

- ・ 本データシートは、日本国内の木材需要に応じた供給体制の整備を図る「原木需給情報システム」の開発、木材需給の分析、中国向け木材輸出の促進並びに需要者への情報提供を目的として、当協会が信頼できると判断した情報源からの情報および独自の調査に基づいて作成されたものであり、特定の組織・個人に資することを目的としたものではない。
- ・ 「…」は、不明或は公表の承諾を得ていない情報を示している。
- ・ 「-」は、データシートの中の項目に該当しないこと或は実績の全くないことを示している。
- ・ 「0」は、データシートにおいて単位に満たないデータを示している。

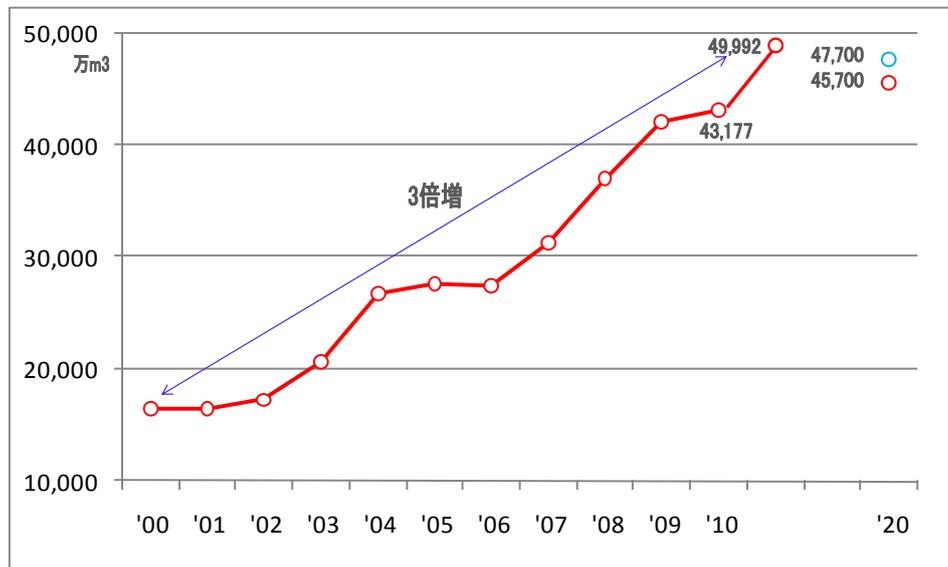
2. 中国の木材需給に対する現状認識

2-1 木材の需給状況

2-1-1 伸び続ける木材需要

経済の高度成長、国民所得の向上、堅調な建築着工を背景に、建築資材、内装用材、家具用材などの消費が年々増加している中国の木材需要量は、2000年の1億6,496万 m^3 から2007年の3億1,360万 m^3 、2011年の5億 m^3 弱まで増加しており、世界有数の木材消費大国になっている。

中国林業科学研究院の予測によると、中国の2020年の木材需要量は、約4億5,700万 m^3 （下限）～4億7,700万 m^3 （上限）に達する見通しである。



年別	木材需要量 (万 m^3)	年別	木材需要量 (万 m^3)
2000	16,496.2	2005	27,675.7
2001	16,447.6	2006	27,490.1
2002	17,282.1	2007	31,360.9
2003	20,690.2	2011 (暫定値)	49,991.9
2004	26,768.9	2020 (見通し)	45,700-47,700

図2-1 中国の木材需要量推移

注：中国林業科学研究院、国家林業局のデータに基づき作成

2-1-2 国内供給の不足

中国の国家林業局が公表した第7次(2004年-2008年)全国森林資源調査のデータ(表2-1)からみると、中国が現有する森林、人工林の面積と蓄積量は絶対量として世界でも上位にあるものの、一人当たりの森林面積および蓄積量は極めて低く、それぞれ0.145haおよび10.151 m^3 に過ぎず、成熟した人工林も少ないため、森林資源の木材供給能力はそれほど大き

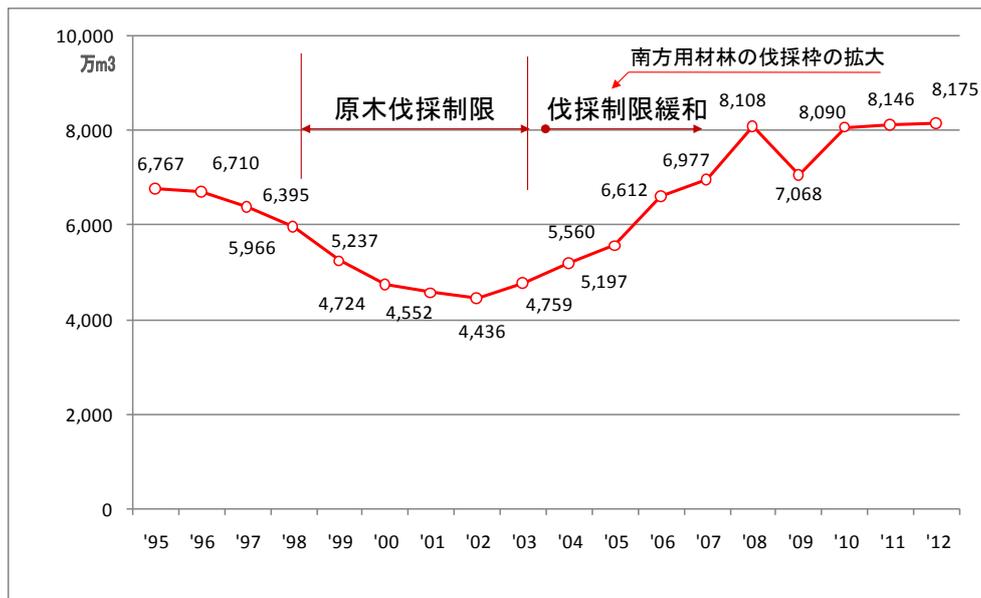
くないといえる。

表 2-1 中国の森林資源概況

森林面積 (億 ha)		森林蓄積 (億 m ³)		森林被覆率 (%)
	うち人工林		うち人工林	
1.95	0.62	137.21	19.61	20.36

出所：中国国家林業局

特に、1998年から始まった天然林資源保護プロジェクトによる原木伐採規制により、国内の原木生産量が2002年まで急激に減少し、タイトな状況にあった木材供給がさらに逼迫している。その後、原木生産量は南方用材林の伐採枠の拡大を主とする伐採制限の緩和により増加傾向に戻り、2006年に伐採制限前の生産水準にまで回復し、2008年にかつてない8,000万m³台に達した後、2011年の8,146万m³、2012年に8,175万m³へと緩やかな増加をみせている(図2-2)。しかし、今後、原木生産の急激な拡大は見込めないだろうとみられる。



年別	原木 (万 m ³)	製材品 (万 m ³)	木質パネル (万 m ³)	木質床板 (万 m ²)
2008	8,108	3,723	9,291	37,689
2009	7,068	4,460	11,325	37,753
2010	8,090	5,568	15,361	47,917
2011	8,146	3,230	20,919	62,908
2012	8,175	3,723	22,336	60,431

ここでいう「原木」には薪用原木を含む。

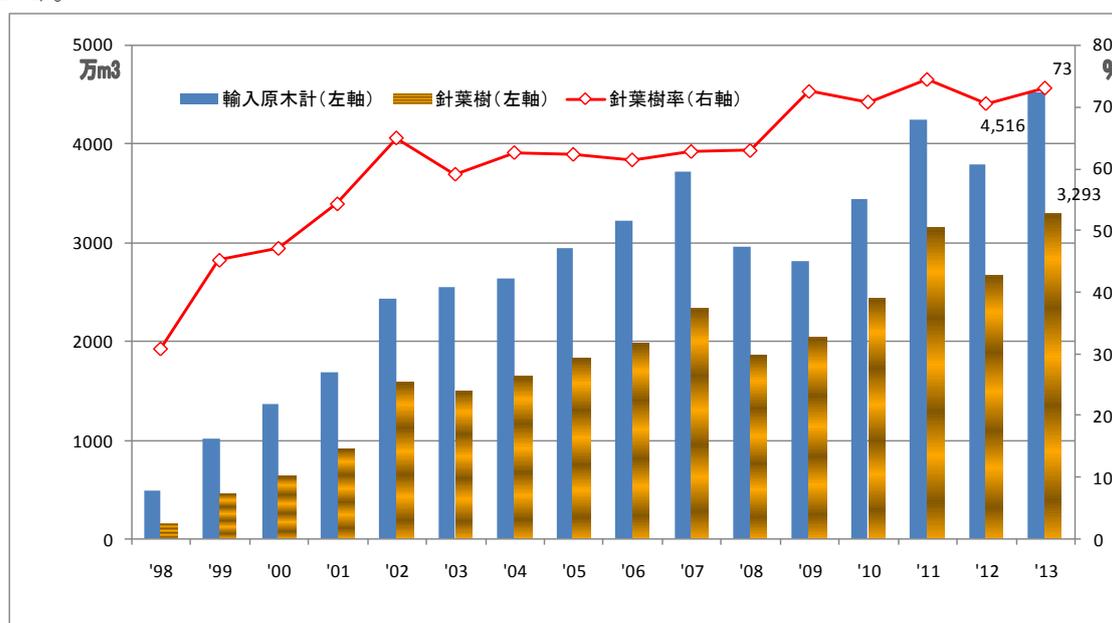
図 2-2 中国の原木、製材品、木質パネル、木質床板生産量推移

注：中国国家林業局「中国林業統計年鑑」(各年版)に基づき作成

このように、利用可能な森林資源が少ない上に、経済成長や所得向上などによる需要急増、伐採削減政策の実施といった要因が重なっているため、木材自給率の低下が続いている。中国の木材需要は国内の森林資源の供給能力を超えており、木材の供給不足は中長期にわたっても確実視される。

2-1-3 海外輸入への依存

こうした国内の木材の供給不足による産業への原料供給ないし経済全体の発展へのマイナス影響を回避するため、中国政府はその対応策として、早成林を主とする用材林の育成、林紙一体化（紙パルプ生産とその原料林造成の一貫化施策）、林板一体化（木質パネル生産とその原料林造成の一貫化施策）、木材の代替利用の推進などに力を入れるとともに、原木・家具輸入のゼロ関税や木材製品輸入の関税引き下げなど、海外木材の輸入拡大を進めている。その結果、原木輸入量は1998年の482万 m^3 から、2007年の3,713万 m^3 、2011年の4,233万 m^3 、2013年の4,516万 m^3 にまで増加し（図2-3）、製材品輸入量は1998年の169万 m^3 から、2007年の649万 m^3 、2011年の2,152万 m^3 、2013年の2,395万 m^3 にまで増加している（図2-4）。



年別	合計 (万 m^3)	広葉樹 (万 m^3)	針葉樹 (万 m^3)	針葉樹率 (%)
2008	2,957	1,099	1,858	62.8
2009	2,806	776	2,030	72.3
2010	3,435	1,008	2,427	70.7
2011	4,233	1,088	3,145	74.3
2012	3,790	1,121	2,669	70.4
2013	4,516	1,223	3,293	72.9

図2-3 中国の原木輸入量推移

注:中国の税関統計に基づき作成

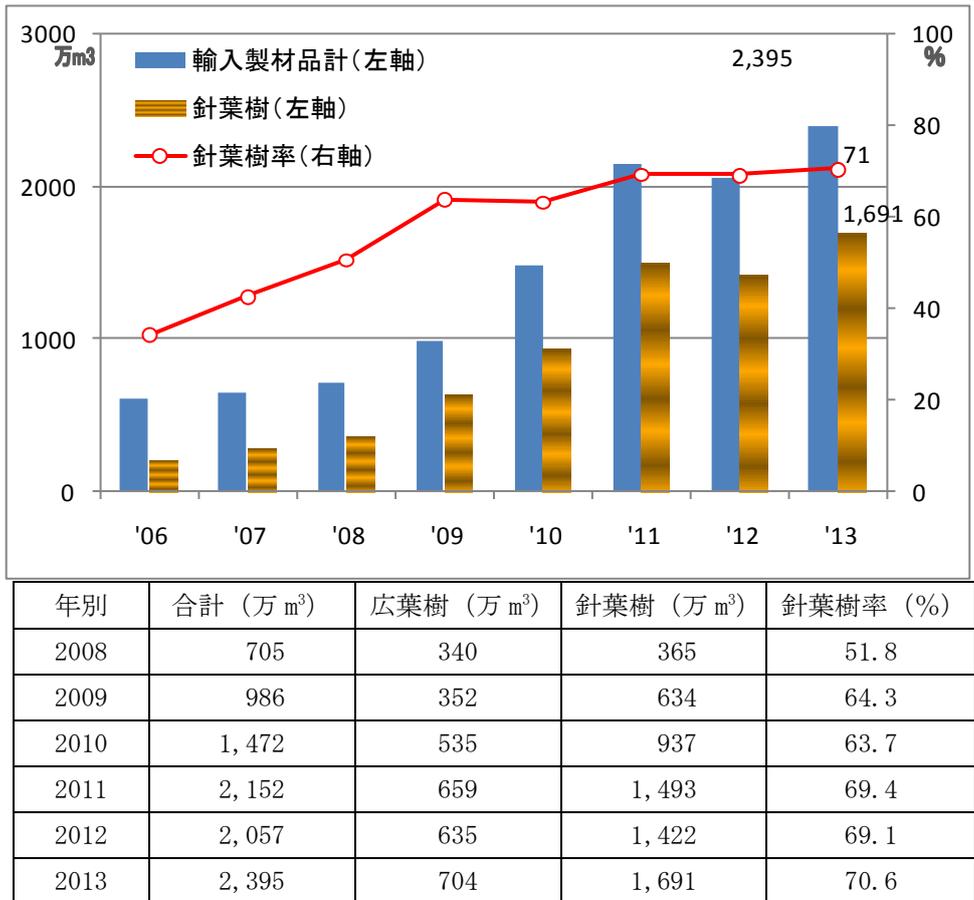
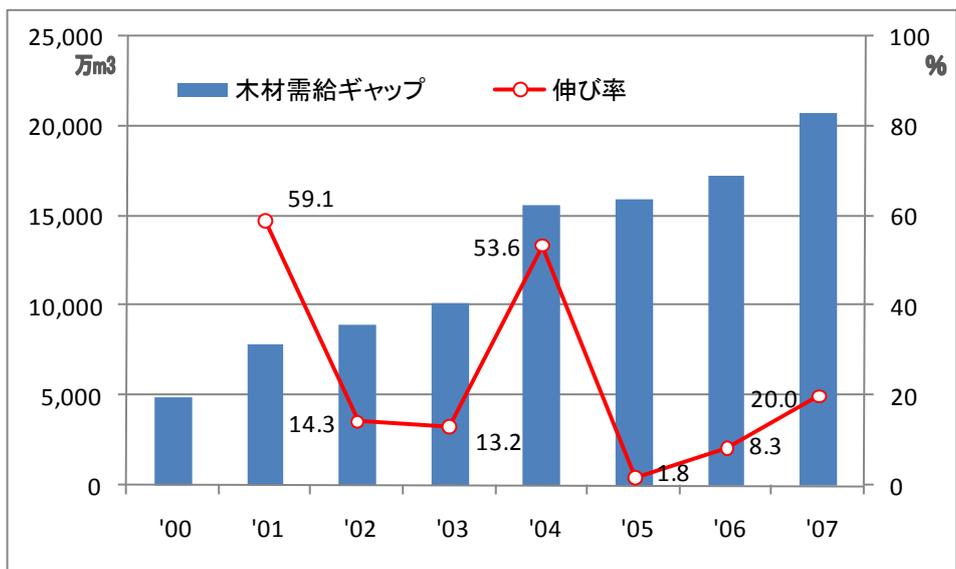


図 2-4 中国の製材品輸入量推移

注: 中国の税関統計に基づき作成

2-1-4 拡大続く需給ギャップ



年別	需給ギャップ (万 m ³)	年別	需給ギャップ (万 m ³)
2000	4,947.5	2004	15,645.4
2001	7,871.6	2005	15,925.2
2002	8,999.3	2006	17,251.3
2003	10,188.4	2007	20,696.3

図2-5 中国の木材需給ギャップ推移

注：①中国林業科学研究院のデータに基づき作成

②木材需給ギャップ=木材消費量 - 国産材供給量

現在、中国の木材需要に対する国内の供給は甚だしく不足している。図2-5に示すように、2007年の木材需給不足分は2000年の約5,000万m³から約2億700万m³へと4倍以上増加している。これまでの需給ギャップは海外から輸入された原木、製材品、チップ、パルプ、古紙などで解消されたが、こうした需給ギャップは今後しばらくの間続くだろうとみられる。

2-2 木材利用の状況

2-2-1 用途別木材需要量

図2-1に示した木材需要量を用途分野別にみると、住宅建設の続伸、所得向上に伴う住環境改善への意識の高まり、紙パルプ産業の急激な成長を背景に、紙パルプ用材、建築・内装用材、家具用材などを含む産業用材の伸びが大きく、2007年では消費量全体の9割を占める28,202万m³にのぼる(表2-2)。こうした産業用材の需要は、さらに2020年の42,200万m³~43,700万m³へと大幅に増加し、木材総需要を2020年の45,700万m³~47,700万m³に押し上げるとの予測が中国林業科学研究院により出されている(表2-3)。

表2-2 中国の用途分野別木材需要実績

年別	合計 (万 m ³)	うち、産業用材 (万 m ³)		うち、農家用材・薪材 (万 m ³)	
			構成比 (%)		構成比 (%)
2000	16,496.2	10,947.3	66.4	5,548.9	33.6
2001	16,447.6	11,100.7	67.5	5,346.9	32.5
2002	17,282.1	12,376.9	71.6	4,905.2	28.4
2003	20,690.2	17,127.7	82.8	3,562.5	17.2
2004	26,768.9	22,482.7	84.0	4,286.2	16.0
2005	27,675.7	23,090.2	83.4	4,585.5	16.6
2006	27,490.1	24,496.9	89.1	2,993.2	10.9
2007	31,360.9	28,202.6	89.9	3,158.3	10.1

注：中国林業科学研究院のデータに基づき作成

表 2-3 中国の 2020 年用途別木材需要量予測

用途分野別		2004 年 (実績)		2020 年				
		(万 m ³)	構成比 (%)	(万 m ³)		構成比 (%)		
				下限値	上限値	下限値	上限値	
産業 用材	建 築 用 材	建築構造用材	3,460	12.9	32,00	3,400	7.0	7.1
		装飾用材	1,900	7.1	4,000	4,200	8.7	8.8
		施工用材	3,000	11.2	3,400	3,600	7.4	7.5
		小計	8,360	31.2	10,600	11,200	23.2	23.5
	家具用材	1,100	4.1	3,500	3,700	7.6	7.8	
	紙パルプ用材	4,400	16.4	14,000	14,500	30.6	30.4	
	木質パネル用材	8,300	31.0	14,100	14,300	30.9	30.0	
	その他	323	1.2					
	計	22,483	84.0	42,200	43,700	92.3	91.6	
農家用材・薪材等		4,286	16.0	3,500	4,000	7.6	8.4	
合計		26,769	100.0	45,700	47,700	100.0		

注：①中国林業科学研究院のデータに基づき作成。

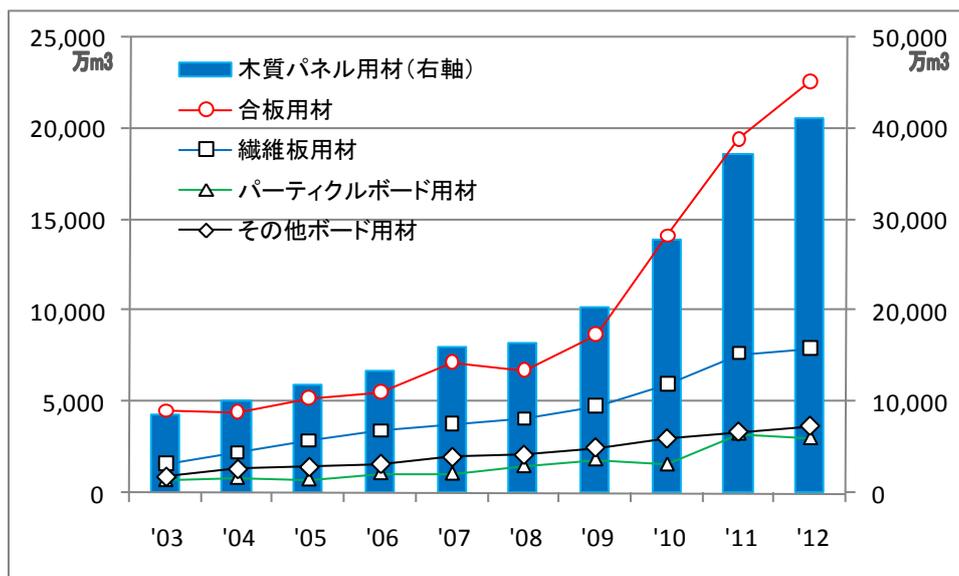
②ここでいう木質パネルは合板、繊維板、パーティクルボード、ブロックボードを指す。

2-2-2 木質パネル用材消費量

2012 年の木質パネル生産量は、22,336 万 m³にのぼり、増加傾向が続いている。その内訳をみると、合板は 49.2%を占める 10,981 万 m³でと最も大きい。繊維板は合板に次ぐ 26.0%を占める 5,800 万 m³に達している。パーティクルボードは 10.5%を占める 2,350 万 m³であり、ブロックボードなどのその他ボードの生産量は 14.3%を占める 3,205 万 m³である。

このような大規模の木質パネル製造に消費された原木量を各品目から竹製や非木質製のものを除いた生産量に、それぞれの原木換算係数を乗じて求めてみると、2012 年の合板用、繊維板用、パーティクルボード用、その他ボード用の原木消費量は、それぞれ約 22,654 万 m³、7,966 万 m³、3,024 万 m³、7,371 万 m³となり、合計で 41,015 万 m³にのぼる (図 2-6)。なお、以上の原木消費量は、繊維板、パーティクルボードの製造に利用された林地残廢材、他の製品の製造過程に発生した加工残廢材などの利用分を控除しない換算値である。

なお、中国では、ポプラ (北方地方にある江蘇省北部の邳州市、山東省の臨沂市、河北省の文安県を主とする合板生産地)、ユーカリ (南方にある広東省、広西自治区などの合板メーカー) をコア材に、オクメなどのアフリカ材やラワンなどの東南アジア材をフェースバックに用いた合板製造が多い。また、山東省、広東省、広西自治区、江蘇省、四川省、福建省、湖北省に集中する繊維板、パーティクルボードの製造は、ポプラ、ユーカリ、バビショウ (南方地方)、雑木などの小径木、低質材、家具・合板・製材工場の廢材、林地残廢材を主原料としている。ブロックボードの製造では主に中国南方産のコウヨウザンを利用しているが、一部の製品にはバビショウ、国内外産のカラマツが使われている。



年別	木質パネル（竹製の合板、パーティクルボード、非木質繊維板を除く）用材消費量（万 m ³ ） （推計値）				
	合板用	繊維板用	パーティクルボード用	その他ボード用	合計
2003	4,502	1,570	711	1,783	8,565
2004	4,430	2,182	836	2,632	10,079
2005	5,246	2,868	749	2,855	11,718
2006	5,564	3,409	1,094	3,197	13,264
2007	7,208	3,788	1,069	3,952	16,017
2008	6,754	4,062	1,480	4,187	16,483
2009	8,704	4,803	1,854	5,004	20,365
2010	14,156	5,945	1,576	5,986	27,662
2011	19,475	7,681	3,272	6,735	37,163
2012	22,654	7,966	3,024	7,371	41,015

図2-6 中国の合板、繊維板、パーティクルボード用原木消費量（推計値）推移

注：①「中国林業統計年鑑」のデータ及び原木換算係数（合板とブロックボード：2.3；

繊維板：1.4；パーティクルボード：1.3）¹を用いて換算

②表中の消費量は、繊維板、パーティクルボードの製造に利用された林地残廃材、他の製品の製造過程に発生した加工残廃材などの利用分を控除しない換算値

2-2-3 紙パルプ用材消費量

中国の紙・板紙生産量は大幅な増加を続けており、2012年では10,250万トンにのぼる。同年消費されたパルプは7,867万トンに達し、うち、木材パルプ810万トン（10.3%）、古

¹ 国際熱帯木材機関、中国林業科学研究院「中国熱帯林産品情報システム確立研究」p.16

紙パルプ 5,983 万トン (76.0%)、非木材パルプ 1,074 万トン (13.7%) である。しかし、輸入パルプのほか、国内で生産された木材パルプの原料 (輸入チップ、輸入丸太、丸太などの国内産パルプ用材) のうち、国内産製紙用丸太を原料とした木材チップ生産量は約 581 万 BDT (1,163 万 m³×1/2) となり、同年のパルプ消費量の 4.5%、木材パルプ消費量の 43.5% を占める 352 万トン (1,163 万 m³×1/3.3) の木材パルプを生産した。

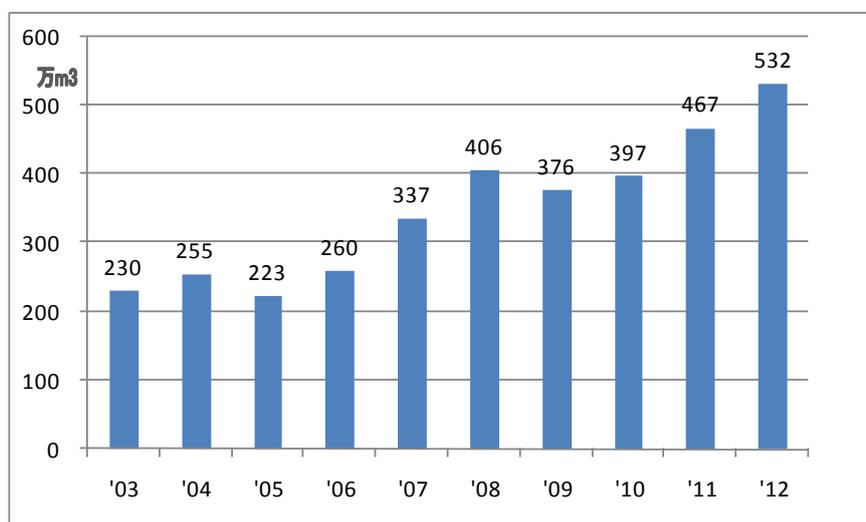


図 2-7 中国の製紙用原木生産量推移

注：中国国家林業局「中国林業統計年鑑」(各年版)に基づき作図

2-2-3 建築用材消費量

年々増加する建築による建築用木材の消費量は大きい。2012 年の建築物の完工床面積が 33.6 億 m²にのぼり、うち住宅は 19.5 億 m²に達している。同年の建築用木材の消費量は、16,073 万 m³にのぼるとの推算がある (表 2-4)。

表 2-4 中国の建築用材消費量推算

年別	建築物完工床面積 (万 m ²)			建築用材の消費量 (万 m ³)		
	合計	住宅	非住宅建築物	合計	住宅建築用	非住宅建築物用
2008	260,307	159,405	100,902	12,511	7,970	4,541
2009	302,117	184,210	117,907	14,516	9,211	5,306
2010	278,565	174,604	103,961	13,408	8,730	4,678
2011	329,073	197,452	131,621	15,796	9,873	5,923
2012	335,504	195,103	140,401	16,073	9,755	6,318

注：①建築物完工床面積は中国国家統計局「中国統計年鑑」(各年版)による。

②住宅建築、非住宅建築物の 1m²あたり消費される木材(製材品ベース)がそれぞれ 0.05m³/m²、0.045m³/m²というデータ²を用いて推算。

² 中国建設部の調査データ(中国林業科学研究院「中国熱帯林産品情報システム確立研究」p.53)

2-2-4 家具用材消費量

2012年に家具全生産量の36.5%を占める23,897万 pcsの木製家具（ムク材を主材とするムク材家具、木質パネルを主材とする木質家具）を生産し、うち、輸出は83.4%と多い（表2-5）。

表2-5 中国の2012年木製家具の生産量、輸出量、輸入量

	数量（万 pcs）	前年比（%）
生産量	23,897.0	-2.1
輸出量	19,936.3	-1.1
輸入量	528.0	17.4

注：①中国軽工業情報センターのデータをもとに作成。

②家具の生産、輸出、輸入数量に部分品が含まれていない。

2012年におけるムク材家具、木質家具の製造に消費された木材（原木換算）を以下のことをもとに求めた結果、それぞれ約1,977万 m³、1,655万 m³に達し、合計で3,632万 m³にのぼる（表2-6）。

- ・ 主産地の広東省、浙江省、山東省、遼寧省などを始め各地で製造された木製家具のうち、ムク材家具、木質家具がそれぞれ4割、6割を占めること³
- ・ ムク材家具、木質家具の1点あたりの木材使用量がそれぞれ0.1m³（製材品ベース）、0.06m³（木質パネルベース）であること⁴
- ・ 家具製造における木材の損耗率が5%とされること

表2-6 中国の2012年木製家具製造の木材消費量推算

	生産量（万 pcs）		木材消費量（推算）	
		割合（%）		割合（%）
木製家具	23,897	100	3,632	100
うち、ムク材家具	10,759	45	1,977	54
木質家具	13,138	55	1,655	46
(1) ムク材家具の製造に消費された木材（原木換算）： $23,897 \text{ 万 pcs} \times 40\% \times 0.1 \text{ m}^3 \text{ 製材品} \times 1.05 \times 1.75 \text{ m}^3 \text{ 原木} / 1 \text{ m}^3 \text{ 製材品} = 1,977.5 \text{ 万 m}^3$				
(2) 木質家具の製造に消費された木材（原木換算）： $23,897 \text{ 万 pcs} \times 60\% \times 0.06 \text{ m}^3 \text{ 木質パネル} \times 1.05 \times 2.00 \text{ m}^3 \text{ 原木} / 1 \text{ m}^3 \text{ 木質パネル} = 1,655 \text{ 万 m}^3$				

³ 許 美琪：中国家具産業における木質材料の需要と供給（「中国木材」、No.1、2007年）

⁴ 江 澤慧：中国林産品発展の現状と展望（「木材工業」、Vol.20、No.2、pp.1-4、2006年）

3. 中国木材需給関連データシート

3-1 主要参考文献

以下のとおり。

- (1) 国家林業局（中国）：中国林業統計年鑑（各年版）
- (2) 国家統計局（中国）：中国統計年鑑（各年版）
- (3) 税関総署（中国）：税関統計

3-2 データシート索引用表

索引用のデータシートリストは以下のとおり。

中国木材需給関連データシート索引表

表番号	データシート名称	所在頁
1	主要品目別木材輸入量	1
2	主要品目別木材輸入額	2
3	部類別原木輸入量	3
4	主要針葉樹別原木輸入量	4
5	主要針葉樹別原木輸入額	5
6	主要熱帯産木材別原木輸入量	6
7	主要熱帯産木材別原木輸入額	7
8	主要広葉樹別原木輸入量	8
9	主要広葉樹別原木輸入額	9
10	部類別製材品輸入量	10
11	主要針葉樹別製材品輸入量	11
12	主要針葉樹別製材品輸入額	12
13	主要熱帯産木材別製材品輸入量	13
14	主要熱帯産木材別製材品輸入額	14
15	主要広葉樹別製材品輸入量	15
16	主要広葉樹別製材品輸入額	16
17	部類別単板・薄板輸入実績	17
18	部類別合板輸入量	18
19	部類別合板輸入額	19
20	部類別パーティクルボード輸入量	20
21	部類別パーティクルボード輸入額	21
22	部類別繊維板輸入量	22
23	部類別繊維板輸入額	23
24	枕木、さねはぎ加工類、改良木材、木製額縁、ケース、工具、 木製建具・建築用木工品、寄木・彫刻類製品輸入量	24
25	枕木、さねはぎ加工類、改良木材、木製額縁、ケース、工具、	25

	木製建具・建築用木工品、寄木・彫刻類製品輸入額	
26	品目別木製食卓用品・台所用品輸入実績	26
27	種類別木材チップ輸入実績	27
28	品目別木製家具輸入量	28
29	品目別木製家具輸入額	29
30	品目別木材パルプ・古紙輸入量	30
31	品目別木材パルプ・古紙輸入額	31
32	主要仕入国別原木輸入量 (1)	32
33	主要仕入国別原木輸入量 (2)	33
34	主要仕入国別原木輸入額 (1)	34
35	主要仕入国別原木輸入額 (2)	35
36	主要仕入国別ベニマツ・モンゴリマツ原木輸入実績	36
37	主要仕入国別スプルー・モミ原木輸入実績	37
38	主要仕入国別ラジアターパイン原木輸入実績	38
39	主要仕入国別カラマツ原木輸入実績	39
40	主要仕入国別製材品輸入量 (1)	40
41	主要仕入国別製材品輸入量 (2)	41
42	主要仕入国別製材品輸入額 (1)	42
43	主要仕入国別製材品輸入額 (2)	43
44	主要仕入国別ベニマツ・モンゴリマツ製材品輸入実績	44
45	主要仕入国別スプルー・モミ製材品輸入実績	45
46	主要仕入国別ラジアターパイン製材品輸入実績	46
47	主要仕入国別ベイマツ製材品輸入実績	47
48	主要仕入国別単板・薄板輸入実績	48
49	主要仕入国別合板輸入実績	49
50	主要仕入国別パーティクルボード輸入実績	50
51	主要仕入国別繊維板輸入実績	51
52	主要仕入国別木製家具輸入実績	52
53	主要仕入国別古紙輸入量 (1)	53
54	主要仕入国別古紙輸入量 (2)	54
55	主要仕入国別古紙輸入額 (1)	55
56	主要仕入国別古紙輸入額 (2)	56
57	主要税関別原木輸入実績 (1)	57
58	主要税関別原木輸入実績 (2)	58
59	主要税関別原木輸入実績 (3)	59
60	主要税関別原木輸入実績 (4)	60
61	主要税関別製材品輸入実績 (1)	61
62	主要税関別製材品輸入実績 (2)	62

63	主要税関別製材品輸入実績 (3)	63
64	品目別木材輸出量 (1)	64
65	品目別木材輸出量 (2)	65
66	品目別木材輸出額 (1)	66
67	品目別木材輸出額 (2)	67
68	主要針葉樹別製材品輸出量	68
69	主要針葉樹別製材品輸出額	69
70	主要広葉樹別製材品輸出量	70
71	主要広葉樹別製材品輸出額	71
72	部類別単板・薄板輸出実績	72
73	部類別合板輸出量	73
74	部類別合板輸出額	74
75	部類別パーティクルボード輸出量	75
76	部類別パーティクルボード輸出額	76
77	部類別繊維板輸出量	77
78	部類別繊維板輸出額	78
79	枕木、さねはぎ加工類、改良木材、木製額縁、ケース、工具、 木製建具・建築用木工品、寄木・彫刻類製品輸出量	79
80	枕木、さねはぎ加工類、改良木材、木製額縁、ケース、工具、 木製建具・建築用木工品、寄木・彫刻類製品輸出額	80
81	品目別木製食卓用品・台所用品輸出実績	81
82	種別別木材チップ輸出実績	82
83	品目別木製家具輸出量	83
84	品目別木製家具輸出額	84
85	主要仕向国・地域別製材品輸出量 (1)	85
86	主要仕向国・地域別製材品輸出量 (2)	86
87	主要仕向国・地域別製材品輸出額 (1)	87
88	主要仕向国・地域別製材品輸出額 (2)	88
89	主要仕入国・地域別単板・薄板輸出実績 (1)	89
90	主要仕入国・地域別単板・薄板輸出実績 (2)	90
91	主要仕入国・地域別合板輸出実績 (1)	91
92	主要仕入国・地域別合板輸出実績 (2)	92
93	主要仕入国・地域別合板輸出実績 (3)	93
94	主要仕向国別パーティクルボード輸出実績	94
95	主要仕向国別繊維板輸出実績	95
96	主要仕向国・地域別木製建具・建築木工品輸出実績 (1)	96
97	主要仕向国・地域別木製建具・建築木工品輸出実績 (2)	97
98	主要仕向国別木製家具輸出実績 (1)	98

99	主要仕向国別木製家具輸出実績 (2)	99
100	主要仕向国別木製家具輸出実績 (3)	100
101	日本向け主要品目別木材輸出量	101
102	日本向け主要品目別木材輸出額	102
103	日本から主要品目別木材輸出量	103
104	日本から主要品目別木材輸出額	104
105	主要木材製品生産量 (1)	105
106	主要木材製品生産量 (2)	106
107	部類別素材生産量	107
108	用途別原木生産量	108
109	種類別製材品生産量	109
110	部類別木質パネル生産量	110
111	種類別合板生産量	111
112	種類別パーティクルボード生産量	112
113	種類別繊維板生産量	113
114	種類別床板生産量	114
115	主要省別原木生産量	115
116	主要省別製材品生産量	116
117	主要省別合板生産量	117
118	主要省別パーティクルボード生産量	118
119	主要省別繊維板生産量	119
120	主要省別中密度繊維板生産量	120
121	主要省別無垢床板生産量	121
122	主要省別複合床板生産量	122
123	主要省別木材チップ生産量 (かさ材積)	123
124	主要木材製品平均市売価格	124
125	主要産地別原木平均市売価格	125
126	主要産地別製材品平均市売価格	126
127	主要産地別合板平均市売価格	127
128	主要産地別パーティクルボード平均市売価格	128
129	主要産地別中密度繊維板平均市売価格	129
130	主要産地別木質床板平均市売価格	130
131	主要産地別木材チップ平均市売価格	131
132	中国産主要樹種別原木平均市売価格 (1)	132
133	中国産主要樹種別原木平均市売価格 (2)	133
134	地域別森林資源賦存量	134
135	全不動産開発企業による建築物着工、新規着工、完工、成約、在庫床面積	135

136	用途別建築物着工床面積	136
137	用途別建築物新規着工床面積	137
138	用途別建築物完工床面積	138
139	用途別販売向け建築物成約床面積	139
140	全不動産開発企業による住宅の完工戸数及び販売戸数	140
141	全国の建築物着工床面積	141
142	全国の建築物完工床面積	142
143	全国都市部・農村部別住宅完工床面積	143
144	全国都市部・農村部1人及び1世帯平均住宅面積	144
145	全国都市部・農村部別住宅完工換算戸数	145
146	人民元対主要通貨の為替レートの推移(年間の平均レート)	146

中国木材需給関連情報収集分析報告書

発行 平成26年1月
一般社団法人日本木材輸出振興協会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12
電話 03-5844-6275
FAX 03-3816-5062
